地域活動を円滑に行うために

現地調査で戸別訪問、アンケート調査を行う際、農村の場合、田植えや稲刈りで忙しい時期やイベントで住民の方が忙しいときは避けるなどの配慮が必要です。

また、一部の住民以外には知らされていないこともありますので、あらかじめ調査（見学）の目的や期間、自分たちがどのようなプログラムで現地を訪問しているかなどを書いた文書を用意しておくと便利です。その際、連絡の取れる代表者と連絡先を明記しておくと住民の方で質問があった場合などに問い合わせることができるのでよいでしょう。地域の複数のお宅を訪問することが分かっているような場合であれば、役所や関係者を通じて地域に回覧をお願いしておくとよいかもしれません。

地域の方と信頼関係を築くことができるよう、「教えていただく」という謙虚な態度をわすれないように心がけ、ご厚意で寄せていただいた情報やお話を無駄にすることのないように、帰ってからみんなでしっかりと話し合い、まとめられるように心がけましょう。また、機会があったら地域の方にもまとめたものをみていただきましょう。

調査によって得られた個人情報がある場合には、対象者のプライバシー保護の観点から、収集したデータの管理や公表の仕方について配慮する必要があります。個人が特定される場合には、公表してよいかどうかきちんと同意を得なければなりません。さらに可能であれば、レポートや報告書としてまとめたものは、ご本人に目を通してもらい、表現が妥当であるか、また意図したところが書かれているかどうか、チェックしてもらいましょう。

地域活動について、よくわからないときは、下記まで気軽にご相談ください。

全学教育機構　学生支援部門

総合教育研究棟Ｂ４５４

電話 ０２５（２６２）７９２７

FAX ０２５（２６２）７９８７

Email: home@ge.niigata-u.ac.jp

ホームページもご覧ください。

http://www.ge.niigata-u.ac.jp/iie/gakuseiGP/

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

地域活動ハンドブック

全学教育機構　学生支援部門

地域活動をしようと思ったら？

地域活動に出る前にはプロジェクト担当教員や地域の方と十分に打ち合わせをし、地域の方にとって忙しい時期（農繁期やお盆、年始年末など）は先方の都合を考え、配慮するようにしましょう。

具体的に地域活動を行う日にちが決定したら、地域活動の日時、集合場所、行程、参加者などを行程表に記入しダブルホーム事務室まで提出してください。行程表の様式はダブルホーム事務室に用意してあります。またhome@ge.niigata-u.ac.jpまでメールしていただければ、折り返し様式を添付してお送りします。

地域活動に移動手段が必要な場合、バス券やバスの手配をしますので、**２週間前までには行程表を提出してください**(時期によっては手配が難しくなることもありますので、早めに手続きをお願いします）。次のページに記入例を用意しました。

宿泊をともなう場合はできるだけ早く、ダブルホーム事務室か学生支援課学務企画係まで相談していただけるとたすかります。

活動のための移動手段と宿泊施設の借り上げ費用は負担しますが、学生の食費を負担することはできませんのでよろしくお願いします。

万が一の事故に備え、ダブルホームでの活動では学研災・学研賠にはいることをお願いしています。保険に自分が加入しているかどうかは、学務情報システムの学生カルテ→学生生活情報→学生保険情報でチェックすることができます。加入していない場合は、必要な書類が準備してありますので事務室に申し出てください。

阿賀町の雁木(08年冬)

狐の嫁入り(08年春)

地域活動持ち物リスト

- カメラ（デジタル一眼レフ・小型デジカメ）
- ビデオカメラ
- ICレコーダー
- 応急処置セット
- 地域のかたへのお土産
- 名札
- 地図
- 用箋ばさみ　など

（B454に常備してあります)

活動日が近づいてきたら

活動記録を取るために、カメラ・ビデオカメラといった備品を借りましょう！

長時間記録が予定されるときは予備のＳＤカードなどもあります。複数のホームが同じ日に活動することもありますので必ず予約してください。

待ち合わせの時にこまらないよう、お互い連絡がつくように工夫しましょう。普段服用している薬や酔い止め薬、保険証も念のために用意しましょう。

地域活動は、慣れない土地で緊張しますし、時間もかかります。前日は無理をしないで、夜はゆっくり休みましょう。

基本的なことですが、自分たちの出したごみは各自持ち帰ってもらいます。ごみを持ち帰るためのビニール袋、雨具、夜になる場合は懐中電灯、またタオルやティッシュペーパー、長袖、小さめのメモ帳、筆記用具は忘れずに用意しましょう。

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

新潟大学ダブルホーム　活動行程表（見本・表）

ホーム名	（　T　）　Ｔｒｉｎｉｔｙ
日程	平成２０年　　１０　月　　１８日　（　土　　）
行先	新潟県村上市三之町地区
宿泊の有　無	（無し）　・　あり　（　　）泊　（宿泊施設名：　　）
活動の目　的	岩船地区で毎年行われる海上の安全や商売繁盛、大漁を願って行われる「岩船大祭り」を見学し、地域の住民がどのように祭りを運営しているかを調査する。また普段地域から離れて暮らしている若者がどう参加し、意識を持っているか調査する。
交通手段	①　バス券 （②　借り上げバス）　（　　９時から　２１　時まで）（往復）・　周遊） ③　その他　（　　）
参加者リスト	教員　　新潟太郎 教員　　新潟次郎　（プロジェクト担当教員） 職員　　新潟花子 チューター・フェロー　新潟　大助、　新潟　学子 学生　　新潟　一夫 新潟　三郎 新潟　三果 新潟　四美 合計　（　　９　　）　人

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

参考文献リスト

調査に関する文献は、たくさんあります。興味がありましたら、図書館・インターネット・書店などで調べてみてください。ここでは、ほんの一部ですが、文献を紹介しておきます。地域活動に行く前／行った後に参考にして下さい。

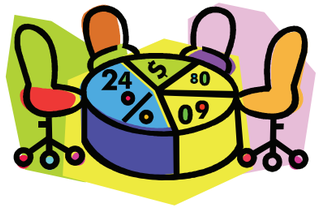
- 保坂亨・中沢潤・大野木裕明『心理学マニュアル 面接法』北大路書房、2000年
- 井上文夫・井上和子・小野能文・西垣悦代『よりよい社会調査をめざして』創元社、1995年
- 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶応義塾大学出版会、2002年
- 宮内泰介『自分で調べる技術――市民のための調査入門』岩波アクティブ新書、2004年
- 森靖雄『地域調査入門――その技法とノウハウ』自治体研究社、1996年
- 大谷信介他『社会調査へのアプローチ[第二版]』ミネルヴァ書房、2004年
- 李仁子『はじまりとしてのフィールドワーク』昭和堂、2008年
- 坂田周一『社会福祉リサーチ――調査手法を理解するために』有斐閣、2003年
- 桜井厚『インタビューの社会学』せりか書房、2002年
- 佐野眞一『私の体験的ノンフィクション術』集英社新書、2001年
- 佐藤郁哉『フィールドワーク――書をもって街にでよう[増訂版]』新曜社、2006年
- 松田素二・川田牧人編『エスノグラフィーガイドブック』嵯峨野書院、2002年
- 関満博『現場主義の知的生産法』ちくま新書、2002年
- 菅原和孝『フィールドワークへの挑戦』世界思想社、2006年
- 武田丈『アクション別フィールドワーク入門』世界思想社、2008年
- 谷岡一郎『データはウソをつく――科学的な社会調査の方法』ちくまプリマー新書、2007年
- 好井裕明『「あたりまえ」を疑う社会学――質的調査のセンス』光文社新書、2006年

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

地域活動後のミーティング

地域活動が終わったらおおむね1週間以内に各自メモを持ち寄り、ミーティングを開くとよいでしょう。もし地域住民の方や、市役所などの方でお世話になった方がいれば、4-5ページで述べたお礼状を分担してだすことが望ましいですし、記憶があまり薄れない間に皆で話し合いをして、記録を整理しておくとよいでしょう。

さまざまな体験をどのように感じたか、を振り返ること、またそれをホーム担当教職員やホームのメンバーとわかちあうことで次の活動につなげていける機会になるかもしれません。振り返りの時間を大切にしてください。



成果の報告・発表の機会

ダブルホームのプロジェクトでは年度内に、1～2回の各ホームの活動報告会を予定しています。地域活動でとってきたビデオや写真を編集して、パワーポイントで発表することもできます。

ビデオ編集は事務室の映像編集用パソコンVAIOでできます。またパワーポイント（2007）はすべてのノート型パソコンにも搭載されています。グループごとの発表の原稿を保存する場合には、各ホーム毎にUSBメモリーが学生入口付近のキャビネットに用意してありますので、それを使用してください。

与えられた時間で、どのように活動成果を報告していくのが望ましいのか、ホーム内で議論をしてください。

また、報告に対し、聞き手からの質問があります。皆さんの報告をホーム以外の方が、どのように感じたのか、評価を受けます。聞き手がわかりやすい報告を目指してください。よくわからないときは、事前に担当の教職員に相談し、助言を受けてください。

2008年4月

平成19年度ダブルホーム
活動報告会の様子

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

新潟大学ダブルホーム　活動行程表（見本・裏）

時間	行程		
8:45	集合　　新潟大学　　西門駐車場		
9:00	出発		
11:30	村上市三之町地区着		
12:00	○○さん宅訪問		
13:30	岩船大祭会場へ（大祭り見学）		
↓			
18:30	○○公民館集合　バス出発		
20:00	到着・解散　新潟大学西門		
連絡事項	食費として２，０００円用意が必要です。（お昼・お弁当、夕食代として）		
	往復の交通費については大学で負担します。		
緊急連絡先	教職員氏名	教員　新潟太郎	
	電話番号	０９０－××××－○○○○	
	学生氏名	新潟　一夫	
	電話番号	０８０－□□□□－××××	

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

調査に行く前に

有田先生の「現地にでかけるときの心得」を事前によみましょう。

また地域の人の中には、なぜ新潟大学の学生がたくさん訪問してきたのか、よく事情がわかっていない場合もあります。お話を聞かせていただく前には必要に応じて、自己紹介をし、どうして自分たちがここに来たのか、またどのようなことを知りたいのかなどを丁寧に説明して理解していただくことも大切です。

また個人のプライバシーを尊重し、調査対象になる方々には迷惑をかけることはないよう配慮するということ、発表の機会があった場合に公表したくないことなどあれば、遠慮なくいっていただくよう、事前に話をするといいでしょう。

地域の方には、貴重な時間を割いていただいて、お話を伺ったり、いろいろなものを見せていただくわけですから、貴重な話を記憶が鮮明なうちにまとめ、生かすことが大切になります。

大学に戻ってきたら

お願い

地域活動で得られたメモや記録は、できるだけすぐにまとめましょう（記憶だけでは忘れてしまいます）。

自分の活動を振り返る作業を大切にしてください。

ビデオやカメラのSDカードの記録は、ダブルホームB454教室にある映像編集用パソコンVAIOに保存することができます。

デスクトップに「平成20年度ダブルホーム活動記録」というフォルダがありますが、ダブルクリックすると各ホームごとのフォルダが用意してありますので、そこへ映像をコピーし、SDカードにある記録は消去してください。

やり方がわからない場合は事務室に声をかけてください。

記録を消したSDカードをカメラなどに戻し、備品は事務室に返してください。貸出期間中に保存した私的ファイルが残っていた場合、消去されますので、注意してください。

お世話になった人にお礼状を書きましょう

ダブルホームの活動で地域に出てお世話になった人やグループがありましたら、帰ってきたあとできるだけ早く礼状を書きましょう。

お礼状の形式は文例集（部門の部屋にも他大学で使用されたものなどを用意しています）を参考にして書けばよいのですが、それよりも相手の方に感謝の気持ちが伝わるよう、自分の言葉で書くようにしましょう。また感謝の気持ちを伝えるのに機会を逃さないよう、できるだけ早くお送りするように気をつけましょう。

書き終わったらダブルホームの部屋（B454）まで持って来てくれれば、こちらで郵送します。また必要なはがきや便せんも用意してありますので申し出てください。

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

●印象に残った出来事

（最低でも2つは書いてください。3つ以上なければ、表を削除してください）

1　民家の前で屋台がとまってお祓い？をしていたこと　（×時▽分ごろ）

できるだけ詳細かつ具体的に	屋台を町中で引きまわしている途中である民家の前で泊まり宮司さんのような人がお祓いをし始めた。家の人はお酒やおつまみを神輿を担ぐ人などに振舞っていた。
そこでの私の言動・行動	写真をあわてて5，6枚撮った。ホームの友達と「なぜだろうね」と話したがわからなかった。
そこで私が感じたこと	なにか特別なお祝いでもある家はお祓いをしてもらうのかと思った。
この場面を取り上げた理由	ただ、屋台を引きまわすだけではなく、屋台が地区にとって特別な意味を付しているように思われたから。
私がこの場面から学んだこと（分析・考察）	本（村上市史や、民俗学辞典）に載っていないか調べてみたいと思う。また地域活動で知り合いになった地域の○○さんにお手紙をだして、このことについてどのような意味があるのか、聞いてみたい。

●印象に残った出来事

できるだけ詳細かつ具体的に	屋台を引きまわす中に、たくさんの若者がいて楽しそうに盛り上がっていた。
そこでの私の言動・行動	Ａ地区の屋台について町内を一周していた。
そこで私が感じたこと	たくさんの若い人が参加していたが、普段から村上に住んでいるのか、このお祭りのために帰省してくるのかが気になった。
この場面を取り上げた理由	すごい活気だったし、自分と同じくらいの年齢の人が楽しそうにしているのが気になったから。
私がこの場面から学んだこと（分析・考察）	地区のなかで年齢に応じて祭りでの役割分担が行われているように感じた。

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

地域活動記録シート　（見本）

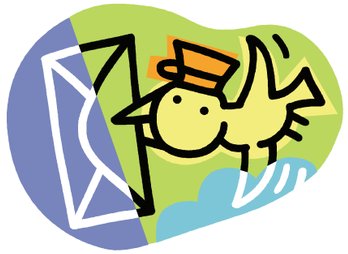
地域活動記録シート　　**記入年月日**　2008年　10月　20日

学生氏名	新潟花子	（活動日　2008　年　10月　18日）	
ホーム名	T	プロジェクト名	岩船大祭見学
活動場所	村上市		

印象に残った出来事を記録している場所に①②③…と番号を追加して、別紙に詳細に書いてください

時間	行動の記録
9：00	**大学出発**
11:30	村上市三之町地区到着
12：00	○○さん宅　訪問　　印象に残った出来事①（家に上がって地区の概要のお話をきいた　）
13：00	岩船大祭会場へ　　印象に残った出来事②（すごくたくさんの人が会場にいてびっくりした　）
14：00	A地区の屋台について町内をまわる　印象に残った出来事③（地区の人と屋台との交流を見学した）
17：00	○○公民館を借りて夕食をとる　印象に残った出来事④（地域の人から祭りについて話をきいた　）
18：30	○○公民館をバスで出発　　印象に残った出来事⑤（　バスの中はみんな疲れてねていた　）
20：00	到着・解散　新潟大学西門
：	**大学到着**

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008



礼状見本

前略　うっとおしい雨の日々が続いておりますが、皆様いかがおすごしでしょうか。

先日は、私たちＴホームの学生が夢の里集落に突然のご訪問をさせていただいたにも関わらず、暖かく迎えてくださいまして、まことにありがとうございました。夢の里の自然の美しさと地域の皆様の優しさに私達も大変感動して帰ってまいりました。前日からご準備をしていただきまして、ありがとうございました。短い時間ではありましたが、地域の行事や生活について教えていただきまして、大変感謝しております。新たな発見を感じる一時を過ごさせていただきました。

機会がありましたら、今後もたびたびお邪魔させていただきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくご指導ください。

末筆ながら皆さんのご健康を心よりお祈りいたします。

簡単なお礼までですが、失礼します。

草　々

平成２０年６月２５日

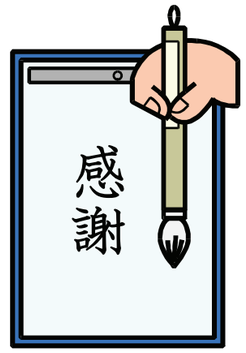
新潟大学Ｔホーム（Trinity）
学生代表
理学部　１年　新潟花子
（または、ホーム学生　一同）

「前略」で始めたときは最後に「草々」を、「拝啓」で始めた時は「敬具」を、使います。

季節ごとのあいさつをいれるとよいでしょう。MS-WORDの「挿入」から「挨拶文」を選択すると例文がでてきます。参考までですが。

自分たちの言葉で、感謝の意を伝えましょう。

日付と所属、名前を入れておきましょう。

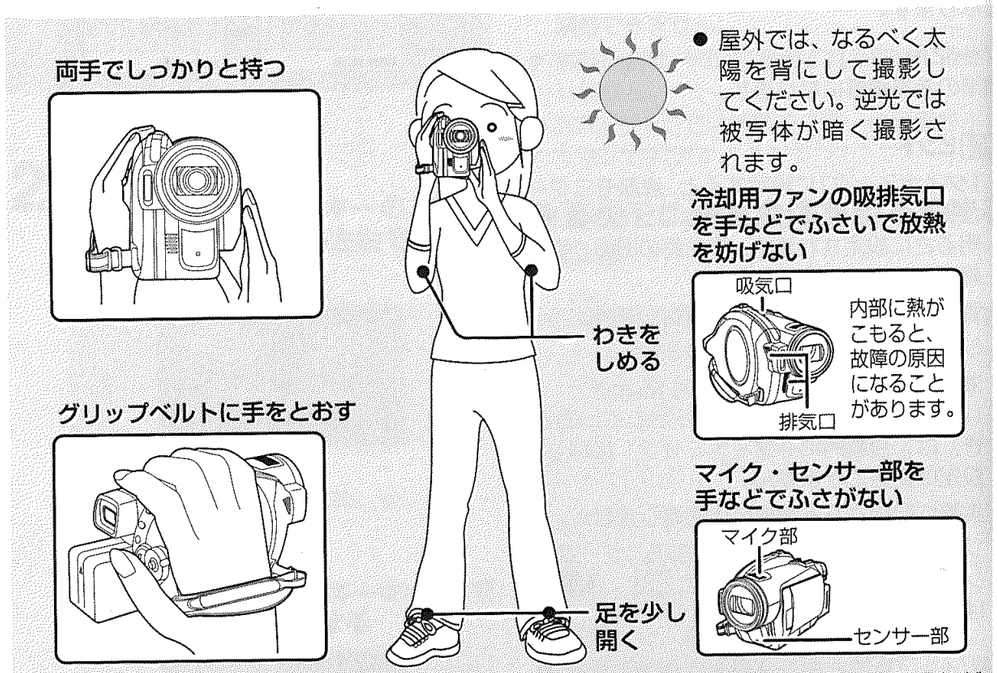


手書きでお願いします。字がきれいかどうかは関係なく、丁寧に、時間をかけて、お礼の気持ちを文字で表すことが大事だと思います。

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

よい記録映像をとるために

■基本的な構えかた



「よい映像」＝「安定した映像」が基本です

撮影する前に、ビデオカメラのグリップベルトを調節して、カメラがガタつかないようにすると手ぶれを防ぐことができます。相手や自分の動きと一緒にビデオカメラを振り回さないように注意しましょう。ビデオカメラを動かさず、ある程度、カメラの中を被写体が動き回るように撮影するようにするとよい映像がとれます。ズームイン・アウトも同じで、ついつい多用しがちですが、後々「船酔いの映像」になるので、必要な場所だけ、最低限利用した方がよいでしょう。撮影が長時間予想される場合は、予備のバッテリーやSDカードもありますので予め携帯しましょう。撮影のマナーも大切です。何を取っているのか尋ねられたら、身分や目的を答えること。また人物が特定できる写真を使う場合にはきちんと相手に承諾を得ましょう。

出典：『Panasonic　デジタルハイビジョンビデオカメラ　HDC-SX5　取扱説明書』　50ページ

デジタルカメラ・デジタルビデオ機種

□デジタルビデオ　Panasonic HDC-SX5
□デジタルカメラ　Panasonic DMC-FX33
□デジタルカメラ　Canon EOS Kissデジタル X
□ＩＣレコーダー　Sony ICD-UX70

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

地域活動のまとめ・振り返り

地域活動から帰ったらメモ書きをもとに、活動で「見た・聞いた・感じた・体験した」ことなどを記録しなおしましょう。活動中に書いたメモは、自分はわかっていることですが、ほかの人から見たら全くわからないことです。また時間がたってしまえば、なぜ・いつ・どのようにメモをとったのかだんだん記憶が薄れていってしまいます。ですから、できるだけ早く、得た情報については整理することが大切になります。またこの活動記録記録をもとにホームの中でお互い報告しあったり、ホーム全体での発表やレポートにつなげることもできます。

地域活動のまとめは自分たちで自由な形式でまとめてもらってかまいませんが、ここでは学生支援部門で用意した地域活動記録シートでサンプルの活動記録例を紹介しますので参考にしてください。

地域活動記録(見本)

記入年月日平成20年11月　9日

（活動日20年10月18日）

学生氏名：　新潟花子

ホーム名：　（T）Ｔｒｉｎｉｔｙ

プロジェクト名：岩船地区の漁労文化（岩船大祭り見学）

●地域活動をおこなってみて（全体的な感想を自由に）

屋台を準備するところから地域でずいぶん長い時間をかけて用意していることを初めて知った。お年寄りから子供まで祭りにかける意気込みがすごく祭りが地域の団結力をたかめるものだと思った。こんどは地区ごとに張り付いてどのような人々が中心となって祭りを運営しているのかについて知りたいと思った。

祭りの様子

お祓い？の写真

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

5．出されたものは先ず口に運ぼう

①農家を訪ねたときには、漬け物などのお茶請けを出してくれることが多いです。このような場合には、初めてのものでも「うまそう」という顔をして食べましょう。これで、一気に場が和むことも多いのです。

②お酒を出されることもあるかもしれませんが、未成年の場合や車を運転する場合には、これは丁寧にお断りしましょう。

◆調査後の心得◆

1．調査後の資料整理は早いうちに

①調査で収集したデーやメモはその日のうちに整理するのが原則です。印象の強いうちにデータを整理し、印象をまとめておかないと、記憶や感動が薄れてしまいます。

②調査が終わると仕事が済んだような気持ちになりがちですが、資料整理までが調査であることを忘れないようにしましょう。

2．各自のメモをもとにミーティングをしよう

①調査後のミーティングは、資料の整理と同様に大切です。各自が整理したメモをもとに、地域の優れた点や課題について確認するほか、今後の方針を議論しましょう。

②自分が気づかなかった点が指摘されたりして、議論の中で見えてくることも多いのです。

3．ミーティングの後には議事メモを作ろう

①ミーティングの後には必ずメモ(議事録)を作成し、配布しましょう。どのようなことを話し合ったのか、どんな結論に達したのか、今後どのような作業をするのか、分担はどうするか等を記録することによって、方向付けと次の作業が明確になります。

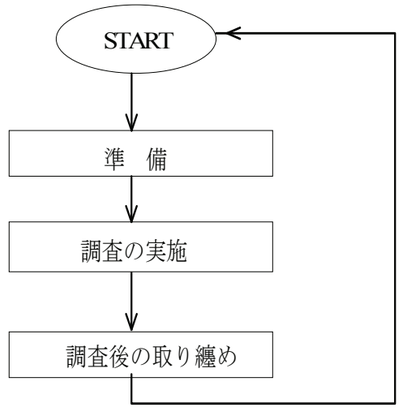
②メモは数行の簡単なものでも構いません。余り力を入れると疲れます。

③メモができたら回覧し、付け加えることや、表現の修正などについて話し合うことも有意義です。

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

現場に出かけるときの心得－こんなことを心がけよう－

調査の流れ



◆基本的事項◆

1．村で出会った人には先に挨拶しよう

①できるだけ大きな声で明るく、笑顔で「こんにちは！」

②声だけでなく、きちんとお辞儀

2．名札を忘れないで

①村の人は、「この人はどこの誰だろう」といぶかっていますので、挨拶の時に名前を言うと同時に、名札で相手が確認できるようにしてください。

②名札をつけていると、「おい、あんた学生さん！」ではなく「●●君」「◎◎さん」と呼んでもらえるので、親しみもわきやすいのです(相手の名前もできるだけ早く覚えましょう)

3．大学に帰ったら、礼状を書こう

①帰ったら、一週間以内に礼状を書きましょう。長文は必要ありません。はがきで、一行、ありがとうと伝えればよいのです。もちろん他のことも書き加えるのはより深い親しみに繋がります。

②デジカメの写真も次回に訪ねるときのお土産になります。気弱な人は、こんなお土産があると話しやすいかな。

◆準備の心得◆

1．質問項目をあらかじめ準備しよう

①調査は出かける前の準備段階で成否は決まります。自分たちは何に関心があるのか、どのようなことが問題と考えているのかをグループで話し合い、確認しておくと適切な質問ができるでしょう。

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

②自分たちの問題意識を確かめるにはどのようなことを聞きたいか、どのような資料が必要であるかを話し合い整理しましょう。出かけるときにはこれらを整理したリストを持って行くと聞き漏らしや、資料の取り忘れはなくなります。

③ただし、資料の請求は必要範囲内にとどめましょう。相手に迷惑であるだけでなく、資料に振り回されることになりかねません。

2．インタビューや役場・事業所に行く時は事前に地域を概観しておこう

①インタビューや役場・事業所に行くと地元の話が出ます。こうした場合、事前に町中や村の様子をあらかじめ見ておくと、説明の内容がよく分かるし、質問もできます。

②事前の観察は、それほど時間をかける必要はありません。車で行ったら村中を30分程度の時間でザーと見ておくだけでも随分と違います。時間があれば、徒歩で確かめることをすすめます。

3．役場・事業所に行く時には必ずアポイントを取ろう

①役場・事業所の人は大変忙しい中で対応をしてくれます。急に出かけていって対応しろと言うのは失礼です。必ず、事前に窓口担当者に連絡を取り、時間をとってもらいましょう。

②役場・事業所に電話するときには、どのようなことを聞きたいかを話し合っておき、具体的に説明できるようにしましょう(事前にはがき等で要点を伝えておくとより確実になります)。

③約束の時刻に遅れるのは失礼ですが、早すぎるのも問題です。通常は約束の時刻に２～３分程度遅れるくらいが適当でしょう。

◆調査時の心得◆

1．質問は具体的に

①質問するときには、具体的に聞きましょう。例えば、「大きいですか」「軽いですか」ではなく、「●センチメートルですか」「●グラムくらいですか」の方がベター。納得したら、図も書いておくと後でも実感が薄れないでしょう。（図を書くことのあと一つの効用は、自分がどの程度理解していないかがよくわかることです）

②相手が話しているときは、相づちを打つのはよいのですが、遮らないように。よい聞き手になる工夫が大切です。一人暮らしの老人などは人恋しさにこちらの聞きたいこととは関わりなく話すことがありますが、焦らずに先ず相手の話を聞く余裕を持ちましょう。

③わからない言葉などが出てきたら、一段落ついたところで確かめます。聞き返すことは決して失礼ではありません。場合によってはノートに書いてもらうことも理解の助けになります。字を見ると、「なーんだ！！」ということも少なくないのです(知ったか振りはいけません）。

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008

④話の途中で聞きたいことを思いつけば、後で聞けるように簡単なメモをとっておきましょう(メモはキーワードだけでも十分)。

⑤方言が聞き取りにくくても流れの中で理解できることが多いです。さして重要でないことを話している場合には、耳を慣らすために抑揚をい楽しむと良いでしょう。大切なキーワードが聞き取れない場合には、一段落ついたところで確かめます。

⑥これは、最も基本的なことですが、相手の話に興味を示すことです。「へエー、すごい」「それで？」「なぜ？」等と言われると、重い口も軽くなります。

2．メモを丁寧にとろう

①メモ用のノート（じっくり聞くときはＡ４、野帳はポケットに入るくらいの方がよい）と鉛筆は必携品です。

②聞いたこと、感じたこと、思いついたこと、どんなことでも記録するよう心がけましょう。学生諸君は授業では余りノートを取らないようですが、一度きりの機会を逃さず有効にするには、ノートを小まめに、的確に取ることが大切です。人に会ったら、プロフィールを自分なりにまとめることなども親しみを増すよい方法です。

③絵や写真も活用して情報を記録しましょう(デジタルカメラは、いろんなものを画像で記録できる優れものです。インタビューに応じてくれた人や、見たものを小まめに写しておくと役立ちます。場合によってはコピー機の機能も果たしてくれます）。後で資料となるものを貼り付けたりするため、セロハンテープやのりも必需品。

④ノートは見開きの左側にだけ記録し、右側のページは開けておきましょう（右側のページには後で気づいたことやその場で記録できなかったことを書くスペースとします）。忘れないうちにノートを整理すると、記憶が体系的になると共に、考えが纏まります。や、感想などを書いておくことも大切です。

3．足下・服装はきっちりと

①農村ではいろんな場所がありますが、それらのどこでも入れる履き物・服装としましょう。かつて私の学生で農村調査にエナメルの靴を履いてきて、牛舎に入らなかった女子学生がいましたが、これはとんでもない心得違いです。

②農村は都市とは違った危険な場所があります。君たちの場合、多くは農村の経験は少ないのですが、こうしたときに足下・服装が確実であることは安全確保の上でも大切です。

4．無神経な言葉遣いや行動には気をつけよう

①何気なく使ったつもりでも、「いやだぁ」「気持ち悪～い」などの言葉や過剰なリアクションは無神経で相手を傷つけることがありますから、気をつけてください。そこには農村の生身の生活があるのです。

②「おもしろそう」を基本に、何でも見て、何にでも触れてみましょう。その結果の「ちょっと苦手」は問題ありません。

ⓒ全学教育機構　学生支援部門　2008